



西尾いきものふれあいの里だより

11月号

2025.11.1 発行

さとやま

11月の里といきもの

今年は、10月も気温が高く、冷房が必要な日がありましたが、下旬に急に肌寒くなり晩秋が突然やってきました。年々過ごしやすい時期が短くなっていくような気がします。長期予報によると11月の気温は平年より高め、紅葉もじわじわと進んでいくようです。

ここ数年、ネイチャーセンターテラス前のアケビはいくつかの実が熟します



アケビ科に分類されるつる性の落葉木本で、春に紫色～白色の花を咲かせます。多くの花が見られますが、実になる木はわずかです。実をつける木は数年続きますが、やがてつかなくなります。異なる個体の間では受精するが、同一個体の受粉では受精できない自家不結実性のためようです。テラス前の木はこの頃少し実の数が減ってきました。来年は見られるでしょうか。

雌雄同株で、1つの花穂に、多数の雄花と1～2個の雌花がつきます。雌花は3～9本ほどの雌しべがあり、うまく結実すると放射状に実がつきますが、普通は1つか2つです。



里では同じアケビ科のつる性落葉木本ミツバアケビの実も見つかります

アケビより少し小ぶりです。春に咲く花もアケビより小さくて、色は濃い紫色です。雄花には花弁のように見えるがくがありません。



アケビは葉が5枚に分かれています、ミツバアケビは3枚に分かれていますので、見分けることができます。

どちらも果肉は生食することができます。甘味があり、酸味や渋みはありませんが、種が多いので、口に含んで甘みを味わいながら種をププッと飛ばすのが昔ながらの楽しみ方です。

皮は苦みがありますが、地方によっては、塩もみをしてから水にさらし、茹でこぼすことを繰り返してアク抜きをして、調理するようです。

11月はこんな生きものも見られます

アケビの他にも様々な木の実、草の実が色付きます。センター前のモチノキ科の常緑中高木のクログネモチや、里のあちこちで見られるセンリョウ科の常緑低木センリョウ、サクラソウ科の常緑低木マンリョウのような赤い実は、縁起が良いということで、庭木や正月飾りに利用されます。

クログネモチは、樹皮から鳥もちをつくるモチノキのなかまで、若い枝や葉柄が黒紫色を帯びていて、乾燥すると黒い鉄のような色になることから名が付けました。

センリョウは葉の上に乗るように実が付き、マンリョウは葉の下に垂れ下がるようにつくので、見分けることができます。



トンボの里や万灯山エリアでは**ムラサキシキブ**や**ヤブムラサキ**の紫色の実もあります。どちらもシソ科に分類される落葉低木で、紫色の実をつけます。ムラサキシキブは、葉は無毛で、表面は滑らかです。実は葉の上に出るのでよく目立ち、庭木に利用されます。

ヤブムラサキは、葉に細かい毛が生えており、触るとふわふわとした感触があります。実は葉の下にでき、ムラサキシキブよりもやや大きく、毛が生えたがくに一部が包まれているので、控え目な感じです。

シソ科に分類される落葉低木の**クサギ**は、赤いがくが星形に反り返った中央に藍色の果実があり、鮮やかなコントラストを見せます。葉や枝をもむと独特の臭いがするのが名前の由来です。



アオツツラフジ科のつる性の落葉木本**アオツツラフジ**は雌雄異株で、雌株に青色の実がつきます。実は、つぶすと紫黒色の汁が出ます。アルカロイド系の毒があり、口にしないよう注意しましょう。中の種子はアンモナイトのような形をしています。

マメ科の**ヌスビトハギ**などのひっつきむしのなかまは、衣服につくと取れにくく厄介ですが、種子を動物に運んでもらい分布を広げるための植物たちの知恵です。面テープ型や、ひっかけ型など様々な仕組みを楽しんでください。

そして、ブナ科の**コナラ**などのどんぐりを探すのも、この時期の楽しみです。



花の少ないこの時期ですが、万灯山エリアでは、花卉の先端がくるくるとカールする、独特の形のキク科の落葉低木、**コウヤボウキ**の花がたくさん咲きます。竹の植栽が禁じられていた高野山で、ほうきをつくるのに利用されたことから名が付けました。

万灯山山頂付近では、日本で栽培される菊の原種の1種とされる、キク科の**リュウノウギク**の花が見つかることがあります。茎や葉をこすると、竜脳に似た芳香（樟脳-しょうのう-に似ていて爽やか）が立ちのぼることから名が付けました。

また小草池では、耐震工事前ほどではありませんが、カモ科の**マガモ**などの冬の水鳥の姿が見られます。

里山を散策して、こんな晩秋の風景を楽しんでみませんか。

10月の行事紹介



「棚田で米づくりしようⅡ（稲刈）」の講座を10月5日（日）に開催しました。

今年の稲刈りは、前日の雨で田んぼが少しぬかるむところもありましたが、泥に足を取られることもなく稲刈りができました。鎌で稲の株を刈り直径12センチくらいに束ね、稲ワラで作ったスゲ縄や麻ひもで縛り、ぬかるんだ泥の中を歩いて、稲束のはざ掛け作業を行いました。

大人も子どもも汗びっしょりで泥んこになりながら、稲刈りの大変さを実感しました。疲れたけど、とても楽しかったと笑顔があふれていました。

11月の行事予定

2日（日）	木の実・草の実を探して里山を散策しよう	20名	AM 9:30～11:30	高須 桂子
-------	---------------------	-----	---------------	-------

内容：赤や青に色づいた木の実・草の実やドングリを探して里山を歩きましょう。
実の中の種のほとんどは球形状ですが、中には変わった形をした種があるよ。
金運のお守りや、小さなアンモナイトもみつかれるかも。

30日（日）	小枝を使って、壁飾りを作ろう	20名	AM 9:30～11:30	三村 崇子
--------	----------------	-----	---------------	-------

内容：みんなで森を散策し、自然からの贈り物を見つけましょう。
小枝を自由な形に組んで飾りつけ、“森で感じ”・“森での楽しさ”を作品に閉じ込めましょう。

12月の行事予定

7日（日）	自然の素材でクリスマスリースを作ろう	20名	AM 9:30～11:30	磯貝はるみ
-------	--------------------	-----	---------------	-------

内容：植物の観察をしながらリースの材料を採集します。自然の素材を生かした、いきものふれあいの里ならではのクリスマスリースを作ってみましょう。

21日（日）	正月飾りを作ろう	20名	AM 9:30～11:30	当園職員
--------	----------	-----	---------------	------

内容：縁起よく新年を迎えるために飾りたい正月飾りを作ります。
里山の竹を使って「花器」を作り、縁起の良いとする松やセンリョウなどで心を込めて飾りつけを行います。
※12月の各講座は、講座開催日に材料費（300円/1作品）を徴収します。
なお、21日の講座のお申込みは、大人2人分までの材料とし、お子さま等と一緒に作るようご協力ください。

- ◇ 参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下の場合**は開講しません。
- ◇ 参加申込者は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ 当日の天候により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、参加費は無料ですが、講座により材料費は実費を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ 各講座の詳細な内容については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266
◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28～1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全